

### 133. 屋外環境改善を目指した大学参加による防犯まちづくりの取組み

– 福岡大学周辺における公園の防犯診断を事例として –

Safe Community Building Project that University Participated for Improvement of Outdoor Conditions

- In the case of Security Diagnosis of Parks around Fukuoka University -

淡島 正憲\*・柴田 久\*\*・樋野 公宏\*\*\*・雨宮 護\*\*\*\*・石橋 知也\*\*

Masanori Awashima, Hisashi Shibata, Kimihiro Hino, Mamoru Amemiya and Tomoya Ishibashi

This paper describes the results achieved for improvement in outdoor conditions by a safe community building project that university participated in the case of security diagnosis of parks around Fukuoka University. It aims to grasp the cause of crime targeted children and factor of parents' fear of the crime, and looks at effectiveness of the project and the role of university. The points of the achievement are as follows: 1) Eliminating blind spots and surveillance are important for crime prevention. 2) The improving unevenness of illumination distribution is effective for the crime prevention in the parks. 3) The role of the university is to catalyze the creation of the collaboration between related people in the safe community building.

**Keywords:** Crime Prevention, University, Outdoor Conditions, Security Diagnosis  
防犯、大学、屋外環境、防犯診断

#### 1. はじめに

##### (1) 本研究の背景と目的

子どもの安全・安心に対する市民のニーズは高い。国土交通省「平成20年住生活総合調査」<sup>1)</sup>によれば、住宅や住環境について「子育てにおいて重要と思う要素」は「住宅および住宅の周りの防犯性」が20.0%と最も高い。また必ずしも犯罪に至らない不審者の出没や声掛けなどの軽微なものに対しても保護者の不安は高く、人口減少や地域社会の衰退により、子どもに対する見守りも一層困難となっている。犯罪は一般に「犯罪企図者」「適切な犯行対象」「遂行しやすい環境」の三者がそろった状況で発生しやすい<sup>2)</sup>。近年ではこの「遂行しやすい環境」を改善することによって犯罪の発生しやすい状況を少なくするための取組みが行われている。こうした取組みを効率的、効果的に実施していくために重要とされるのが、住民や行政等の連携、地域特性への配慮である<sup>3)</sup>。しかし、現状として地域特性に配慮した防犯の取組みは未だ成果の蓄積には至っていない。

一方、地域の防犯活動において、大学生を中心とした学生ボランティアの存在が注目されている。警察庁は地域における防犯ボランティア団体の参加者の高齢化を危惧し、全国の大学や短大と協力して防犯活動への学生参加を呼びかけている<sup>4)</sup>。これに対して大学側においても、地域における存在意義の向上や学生に対する教育効果を念頭に、社会貢献活動の推進が図られている。防犯まちづくりを進めていくうえで大学の存在は重要な地域資源であり、大学立地という地域特性に配慮した防犯活動の可能性や課題について検討することは重要と考える。

よって本研究では、大学等が主催した防犯まちづくりを目的とする地域調査活動を事例に、子ども対象事案の発生

要因及び保護者の犯罪不安要因を把握するとともに、屋外環境改善の要点を明らかにする。そのうえで大学立地という地域特性を活かした防犯まちづくりの方策と大学の役割について、実践的に考察することを目的としている。

##### (2) 研究の位置付けと進め方

樋野・吉村<sup>5)</sup>は、地区レベルでの防犯まちづくりに関する計画づくりの意義と課題を明確化し、それを踏まえた望ましい計画づくりのあり方を提案している。雨宮・島田<sup>6)</sup>、雨宮ら<sup>7)</sup>は、地区類型と犯罪不安の程度や内容との関連性を明らかにし、また、公園における逸脱行為の実態と行為発生に寄与する環境要因を定量的に示し、立地環境を踏まえた対策を論じている。また吉村ら<sup>8)</sup>は、対象地域住民へのアンケート調査より犯罪発生の可能性のある箇所を地図に示し、大学が支援する防犯まちづくりの手法を提案している。一方、独立行政法人建築研究所（以下、建研）は防犯まちづくりのための調査の手引きをまとめており、汎用性の高い方法論を提示している<sup>9)</sup>。しかし、防犯まちづくりの事例として、地域貢献を目指す大学を核としながら、大学生と住民、行政ならびに警察が協同で実施した活動の成果と課題を報告したものは管見では見られない。

現在、福岡県では、平成14年度までの犯罪認知件数の急激な増加に伴い、防犯カメラの増設や防犯ボランティア団体の新設など、様々な取組みが行われている。犯罪認知件数は年々減少の傾向にあるものの、依然として住宅やその周辺の防犯性についての関心が高い。平成23年度、福岡大学と建研は、前項で指摘した理論的背景に基づき、福岡大学周辺を対象地とした協同の防犯まちづくりプロジェクト（以下、本プロジェクト）を実施した。福岡大学では大学の社会（地域）貢献機能を強化するため「地域ネット推進センター」（以下、地域ネット）を開設し、地域と連携し

\*学生会員 福岡大学大学院工学研究科建設工学専攻 (Fukuoka University)

\*\*正会員 福岡大学工学部社会デザイン工学科 (Fukuoka University)

\*\*\*正会員 独立行政法人建築研究所 (Building Research Institute)

\*\*\*\*正会員 東京大学空間情報科学研究センター (Center for Spatial Information Science, The University of Tokyo)

様々な活動に取り組んでいる。本プロジェクトは、地域ネットの支援を受けながら、地域及び子どもの防犯と保護者世代の意識啓発、加えて屋外環境の改善を目的とし、子どもの日常空間であり、犯罪や犯罪不安の発生しやすい公園を中心とした現状把握と防犯検討に取り組んでいる。

本研究ではまず本プロジェクトの内容として関係主体や調査対象地内の公園を概説したうえで、対象地内に含まれる4つの小学校に通学する児童の保護者を対象とした、公園に関する意識調査(以下、意識調査)ならびに子どもと地域住民らが参加したワークショップ型の防犯診断(以下、防犯診断)の概要について報告する。さらにこれらの調査結果を示し、防犯まちづくりに関する屋外環境改善の要点ならびに大学の役割について考察する。

## 2. 防犯まちづくりプロジェクトと調査の概要

### (1) プロジェクトの関係主体および経緯

本プロジェクトは、表-1に示すように研究成果の普及を目指す建研の提案に対し、防犯ボランティア活動の促進を図る福岡県警察(以下、県警)が応じたことから始まった。以前より、建研は県警に講演等の技術指導を行っていた。

その後、県警は、福岡大学の学生ボランティア団体である「ななくま元気にするっ隊」(以下、ななくま)に白羽の矢を立て、上記プロジェクトへの協力を依頼した。また、地域ネットが県警に対して住民参加型まちづくりを専門とする景観まちづくり研究室(以下、景研)を紹介したことを契機に、建研と景研の双方のやり取りがうまれ三者の連携が始まった。一方、県警は、NPO法人福岡県防犯設備士協会、地元区役所、小学校等に協力を依頼した。

本プロジェクトで実施された、意識調査や防犯診断により、保護者世代の意識、対象地の現状や課題が把握された。これらの結果報告と同時に、住民や自治会、行政などを対象に防犯をテーマとしたシンポジウムを開催し、地域住民に対する情報の共有を図った。前述した建研の「防犯まちづくりのための調査の手引き」<sup>9)</sup>に基づいて意識調査と防犯診断の2段階の調査を行うこととし、調査票や診断項目など具体的な方法は調査対象地域の現状を踏まえて景研、建研の協議によって決定した。

### (2) 調査概要

#### (a) 公園に対する意識調査の実施

本プロジェクトを進めるに当たり、後述する小学校から半径1km以内を範囲とし、合計72の公園を抽出した<sup>(1)</sup>(本研究で考察するにあたり各公園の概要を表-2のように把握している)。これら72公園の現状について、対象地内にある4つの小学校(金山、七隈、南片江、片江)における児童の保護者に対して意識調査を行った。調査の概要を表-3に示す。調査票の配布数は金山が253、七隈569、南片江486、片江590、合計1898であり、回答数は金山142(回答率56%)、七隈272(48%)、南片江219(45%)、片江216(37%)、合計849(回答率45%)であった。調査では校区ごとに公園の位置が記載された地図を参照、自宅から近い

公園を3つ選択してもらった。表-4に示す8項目について、選択した3つの公園毎に回答を求めた。また項目5「公園で遊ぶ遊びの内容」については複数選択、項目6「公園で小学生が物を取られたり、体に危害を加えられたり、いやらしいことを言われたりされたりという話を聞いたことがあるか」と項目8「防犯面から見た公園の良い点・悪い点」については自由記述形式となっている(項目6については以後「子ども対象事案の伝聞の有無」と総称する)。ここでは意見の内容から、傾向を分類した上で、それらを「意見項目」として抽出し、整理を試みた。

表-1 防犯シンポジウムに至る活動の経緯

期日・目的	活動内容	関係団体
[平成23年]12月 県警と建研とのイベントの企画の開始	・県内の防犯ボランティア活動を促進させたい県警と研究成果の普及を目指す建研でイベントの企画を開始	県警・建研
3月 打ち合わせ	・県警が福防設・ななくまを建研に引き合わせる	県警/建研/福防設/ななくま
4月 景研と建研の連携	・地域ネットが県警に対して、まちづくり専門の景研を推薦 ・建研から景研に対して連絡	景研/建研/地域ネット
6/8'20 対象地内にある公園の現状調査	・草木の繁茂や落書き、街灯の故障などを把握	景研
6/21 関係団体の顔合わせ	・今後の方針、それぞれの役割の確認	景研/県警/建研/福防設
7月 区、小学校に協力を依頼。意識調査を実施	・県警より区、小学校に協力を依頼 ・対象地内の4つの小学校に対し意識調査票を実施	景研/県警
7/21 打ち合わせ・予備調査	・くらがり調査、防犯診断の手順や留意点の確認 ・防犯シンポジウム講演内容の検討 ・くらがり調査の予備調査を実施	景研/県警/建研/福防設
7/22 区・自治会との打ち合わせ	・地域ネットを通して調査に参加して頂く住民の募集、調査の内容について報告	地域ネット
8月中旬 意識調査結果をもとに調査を行う公園の選定	・集計結果より問題のある公園の抽出 ・抽出した公園から実際に調査を行う公園を選定	景研/県警
8月下旬 公園内の詳細地図の作成	・県警よりゼンリンに詳細地図の作成を依頼	県警
9/01 くらがり調査の予行演習	・照度測定箇所の決定 ・当日雨天を想定した照度データの採取	景研/県警
9/16 くらがり調査	・照度、街灯の故障等住民が不安に感じる場所の調査	景研/地域ネット/ななくま/県警/建研/福防設
9/17 防犯診断/防犯シンポジウム	・死傷、落書きやゴミ、破壊活動の痕跡等の調査 ・これまでにあった調査や意識調査票の結果報告 ・県警、建研の持つ情報や研究の報告	景研/県警/建研/福防設

景研=景観まちづくり研究室、地域ネット=地域ネット推進センター、県警=福岡県警察、建研=(独)建築研究所、福防設=(NPO)福岡県防犯設備士協会、ななくま=ななくま元気にするっ隊

表-2 意識調査対象公園の概要

公園名	松山中央公園	浦谷公園
概観		
種別/面積	近隣公園/17295㎡	街区公園/2471㎡
設備	グラウンド・遊具・トイレ	グラウンド・遊具・トイレ
特徴	公園は長方形になっており、植栽が多い。グラウンドは大通りから見て奥側に位置している。遊具は丘の上に設置してありグラウンドや公園外から見通しがきかず、また遊具周辺は暗くなっている。	周囲には学生マンションが多いものの公園内は樹木が茂って鬱蒼としており、周囲からの見通しを遮っている。トイレは人目の付かない公園の隅に設置してある。公園内や周囲には街灯が少なく暗い。
金山公園	七隈若宮公園	七隈公園
		
街区公園/1913㎡	街区公園/1002㎡	街区公園/1417㎡
広場・遊具	広場・遊具	グラウンド・遊具
道路から一段高いところに位置しているため、公園外からの見通しがやや悪い。公園内は見通しは良いものの、遊具は公園の隅にあり死角になっているほか、雑草が多く管理が行き届いていない。	植栽が少なく周囲のマンションや、住宅からの見通しが確保されている。また公園の前を通る道路は、交通量が多く公園全体が明るい印象を受ける。住民が管理している花壇が多い。	全体的に見通しが良く、遊具側は道路から一段高くなっているが、植栽の剪定の工夫により見通しが確保されている。落書きや、ゴミの放置などが見受けられる。遊具が比較的新しい。

表-3 公園に対する意識調査の概要

調査時期	2011/7/07~15	調査主体	福岡県警察
調査方法	小学校から直接配布・回収	回収率	849/1898 (45%)
調査対象	金山、七隈、南片江、片江小学校に通う全児童の保護者		

表-4 公園に対する意識調査の項目と内容の対応

項目	調査票に記載した質問内容と選択肢
属性	項目1 学校名、学年、性別、回答者の続柄 続柄は母・父・祖父母・その他より選択
調査公園の利用状況	項目2 調査票裏面記載の地図を用いて、 「自宅から近い公園の番号を3つ選択」
	項目3 自宅から公園まで歩いて何分かかかるか [1.5分以内 2.5~10分 3.10~15分 4.15分以上] から選択
	項目4 公園に遊びに行く頻度 [1.月に1度以下 2.月に2,3回くらい 3.週に1回くらい 4.週に2回以上 5.行ったことがない] から選択
	項目5 公園でする遊びの内容 [1.ボール遊び 2.遊具での遊び 3.砂遊び 4.鬼ごっこ・かくれんぼ 5.自転車 6.自然遊び 7.探検・秘密基地づくり 8.携帯用ゲーム機・ カードゲーム] から選択 (複数選択可能)
	項目6 子どもが物を取られたり、体に危害を加えられたり、 いやらしいことを言われたりされたりしたという話を 聞いたことがあるか [1.なし 2.あり] から選択 [2.ありの場合はその内容も記述] (以後「子ども対象事案の伝聞の有無」と総称する)
	項目7 公園でどの程度安心して遊ばせることができるか [1.安心して遊ばせられる 2.不安だが遊ばせられる 3.不安で遊ばせられない 4.わからない] から選択
	項目8 防犯面から見た公園の良い点・悪い点 [自由記述]

(b) 公園内及び周辺環境の防犯診断の実施

意識調査からだけでは入手し難い、普段から利用している地域住民の有する情報や詳細な現状を把握するべく、住民参加の防犯診断を行った。防犯診断の主な参加者は、対象地域内の住民(保護者および子ども)、県警、福岡県防犯設備士協会、行政、景研、ななくまでであった。これらを均等に振り分け1班8名程度で5班作成し、1班当たり2つの公園を周回、診断した。なお、参加した住民は地域ネットならびに県警と区役所より4校区内の自治会を通して募集している。防犯診断では、くらがり調査<sup>(2)</sup>(写真-1)を夜間に1時間半、公園の空間構成及び周辺環境の実態調査(写真-2)を昼間に1時間かけて行い、照度の問題や見通し、死角の状況などを把握している。本診断の準備段階として、前もって景研と県警が予備調査を行っており、それらの結果を踏まえて防犯診断時の調査シートを作成している。防犯診断の結果はA0版の地図に記入し、診断の参加者全員で共有した。

調査ではまず防犯の専門家が診断ポイントの事前説明を調査者に対して行った後、利用者である住民は当該公園の普段の様子等を現場にて調査者に情報提供しながら診断を



写真-1 照度測定の様子

写真-2 実態調査の様子

表-5 公園に対する意識調査の集計結果

校区	回答者数	公園選択数	学年(%)					性別(%)		続柄(%)				自宅から公園まで歩いて何分かかかるか(%)				公園に遊びに行く頻度(%)				子ども対象事案の伝聞の有無(%)		どの程度安心して遊ばせられるか(%)			
			1	2	3	4	5	6	男	女	母	父	祖父母	その他	5分以内	5~10分	10~15分	15分以上	月に1回以下	月に2-3回くらい	週に1回くらい	週に2回以上	無し	有り	安心して遊ばせられる	不安だが遊ばせられる	不安で遊ばせられない
金山	142	411	20	19	15	20	12	13	52	48	94	4	1	1	43	43	12	2	46	23	15	16	90	10	41	49	10
七隈	272	783	12	19	12	18	20	18	47	53	92	7	1	0	41	40	16	3	62	20	11	7	97	3	36	51	13
南片江	219	636	16	19	16	18	14	17	54	46	95	4	0	0	45	39	14	3	50	22	13	14	83	17	33	54	13
片江	216	618	10	15	12	20	21	22	51	49	93	6	1	0	48	36	13	2	56	23	10	10	86	14	27	56	18

を進める形式が取られた。本調査における対象公園は、事前の意識調査結果から得られた危険性及び不安の高い公園のうち、ワークショップ会場からの距離や校区ごとの公園数に偏りが無いよう考慮して選出している。

3. 意識調査及び防犯診断の結果

(1) 公園に対する意識調査より得られた成果

(a) 意識調査の集計結果

意識調査の集計結果を表-5に示す。これより、項目2で得られた各校区の公園選択数は金山が411、七隈783、南片江636、片江が618であった。これに対し、項目6の「子ども対象事案の伝聞の有無」で「有り」と回答された割合を見ると、南片江が17%と最も高い結果が得られた。一方七隈は前述した公園選択数が最大であったにもかかわらず3%と最も少なく、他の校区に比べて、犯罪発生率が低い校区と推察される。

(b) 利用頻度の高い公園の意見傾向

意識調査より、利用頻度が高い公園の意見として「遊んでいる子どもや散歩者がいる」、「よく外側から見える」などが挙げられた。すなわち、利用頻度の高い公園の理由として、見通しの良さに加えて公園内や周囲に人が存在し、見守りの目の多さが把握された。

(c) 子ども対象事案の伝聞が多い公園の意見傾向

項目6「対象事案の伝聞の有無」において「有り」の割合が15%以上の8公園、およびそれらの公園に対して項目8「防犯面から見た公園」の「悪い点」として回答の多かった意見項目とその意見の一例を表-6に示す<sup>(3)</sup>。これより、8箇所公園のうち5箇所、「草木や遊具による死角がある」の割合が共通して高く、「見通しが悪い」「暗い」も高い。すなわち、保護者の犯罪不安を高める要因として、樹木の繁茂や遊具により死角が多いこと、さらに照度不足や見通しの悪さによる「監視性」の悪さが把握できよう。また表-6に挙げられた公園のうち「神松寺東公園」は「利用者が様々」「不法駐車がある」の回答割合が高い。理由として、隣接する商業施設の来訪者がついでに公園を利用していることや、公園内に設置されたトイレの利用者が周辺で不法駐車をしていることが挙げられる。

(d) 利用時の安心度に影響する要因について

項目7「公園でどの程度安心して遊ばせることができるか」で「安心して遊ばせることができる」の割合が20%以下の8公園、およびそれらの公園に対して項目8「防犯面から見た公園」の「悪い点」として回答の多かった意見項

目とその意見の一例を表-7に示す<sup>(4)(5)</sup>。これより8箇所のうち5箇所で、遊んでいる子どもを見かけないといった「利用者が少ない」の割合が共通して高く、「周辺の人通りが少ない」「暗い」も各公園で高い割合を示した。すなわち、公園に対する保護者の安心度低下の要因は、公園内または周辺に人がいないこと、照度不足による「監視性」の低さが影響するものと考えられる。

表-6 対象事案の伝聞有りの割合が高い公園とその公園の悪い点

公園名・割合	「防犯面から見た公園の悪い点」割合の高い意見項目(上位二つ)	意見の内容(一部)	割合
片江中央 30%	草木や遊具などにより死角がある	森の様なで死角が沢山ある/自然は沢山あるが死角がある/木が沢山あって死角となる/樹木やトイレ設備により死角がある	17%
	暗い	暗い暗い場所や人目につかない場所がある	10%
早苗田 29%	草木や遊具などにより死角がある	死角になる所がある/木が多く死角になる所が多い/木や草陰で死角が多い/林があり視界が悪い所がある	20%
	見通しが悪い	見通しが悪い/見通しが悪すぎる/外から園内の様子が見えない	10%
神松寺北 29%	見通しが悪い	外からの見通しが悪い/外から公園内が見えない/公園内から見えない/園内から見えない/園内から見えない	15%
	周辺の人通りが少ない	人通りが少ない/人通りが少ないので子供だけでは怖い	14%
松山中央 23%	草木や遊具などにより死角がある	遊具で遊ぶと木で見えにくくなる/死角が多いので心配/自然が多い分、死角も多い	15%
	人目が少ない	奥まった場所にあるため人目につかない	9%
浦谷 23%	草木や遊具などにより死角がある	木が多すぎて周辺から見えない/木が多くて隠れやすい/周辺の木で見通しが悪い/死角になる所がある	13%
	暗い	暗い感じがして人が少ない/照明が無い	9%
神松寺東 18%	利用者が様々	いろいろな人の出入りが多い/ベンチで男の人がよく喋っている/お昼近く不特定多数が出入りし、とても汚い	16%
	不法駐車がある	不法駐車が多い/車中で喋っている人が多い	12%
仲の町 16%	周辺の道路に危険を感じる	ボールが外へ出たとき等車の通りが不安/車の通りが多い/車道が狭くて危ない/通行中の車と子供が接触しそうになる	20%
	落書きやゴミがある	ゴミがちらかっている/ゴミが多いように思う	11%
油山北 16%	草木や遊具などにより死角がある	すぐに雑草が境界をささげる/木(死角)が多い/公園が高台であり、木々も多く見通しが悪い	17%
	整備が行きとどいていない	草が生い茂り、草刈りの頻度が少ない	12%

表-7 利用時の安心度が低い公園とその公園の悪い点

公園名・割合	「防犯面から見た公園の悪い点」割合の高い意見項目(上位二つ)	意見の内容(一部)	割合
神松寺1号 7%	利用者が少ない	人が少ない人通りと遊んでいる子供が少ないイメージ/誰も遊んでおらず人目が無い/遊んでいない子供が少ない	35%
	周辺の人通りが少ない	人通りが少ない/広いが人通りが無い	13%
友丘北 9%	暗い	暗い感じがする/暗く嫌な感じ	25%
	周辺の人通りが少ない	人通りが少なく夕方には危ない人通りが少ない	25%
七隈菊池 10%	暗い	暗くて心配/日中でも暗い/薄暗い	23%
	周辺の人通りが少ない	人通りが少ない/神社の裏で少ない人通りが少ない	20%
	周辺の人通りが少ない	人通りが少ない/人通りが少く暗い	29%
鳥廻り 11%	若者のたむろ	夕方になると中高生の公園になるので不安になる/周辺に人気の少ない建物がある	14%
神松寺3号 12%	利用者が少ない	遊んでいる子供が少ない/住宅街の中でほとんど人がいない/子供が遊ぶ姿を見た事が無い	22%
	草木や遊具による死角がある	公園は隠れた場所内に死地が多い/死角になる部分が多い/住宅街にあるが死角になっている	17%
神松寺5号 14%	狭い	狭い狭い、遊ぶというより休憩所	19%
	利用者が少ない	遊んでいる姿を見かけない/遊んでいる子供があまりいない/草木が茂って遊べない	12%
菊池ヶ丘 18%	利用者が少ない	あまり子供が遊んでいるのをみない/人が少ない	19%
	暗い	暗い暗い、人がいない	14%
梅林北 20%	利用者が少ない	人があまり集まらない/遊んでいる子供をあまり見ない	25%
	人目が少ない	人の気配が全くない/で行かせない/人が少ない	15%

表-8 防犯診断結果より得られた公園に対する意見

松山中央公園 一金山公園 ルート	△街灯が少なく道路が暗い/街灯のグロウの汚れ・破損/道が狭く坂が多い/歩行者が少ない/犯罪に対して注意を呼びかける看板が少ない ○明るい/自動販売機があり明るい/車の通りが少ない/街中にゴミが少ない/街灯のグロウがきれい/明るい	△死角になる場所がある/坂になっており公園内が道路から見えない/駐車車両が多く臭いが悪い/街灯の間隔が開いている/ブランコに落書きがある/人通りが少ない ○子どもが行きたがる/木があつて涼しい/虫がいる/子どもが多い/グラウンド側は明るい/ラジオ体操で利用/クラブで利用/夜間に福次生が遊んでいる □トイレや水道があった方がいい
七隈菊池公園 一七隈公園 ルート	△街灯が切れている/砂場にネットが設置されている/公園が木に覆われている/街灯が少ない/暗い/駐車場/明かりのない学生アパート/窓のないアパート ○玄関灯で明るい/街灯が明るい通り/掃除をしている人がいる/センサー/ライトがついている □定期的な街灯検査をした方がいい/剪定した方がいい	△倉庫の扉が開いている/変な人がいたと聞いたことがある/砂場が硬い/段差があり見通しが悪い/広場からボールが飛び出しやすい/木の枝が邪魔 ○インバータ付き照明/遊具が固まって設置してあり目が届く/パトロールが月に1回ある/住民の要望で明かりが追加された/周辺の建物から見通しがよい
菊池ヶ丘公園 一七隈若宮公園 ルート	△小学校に街灯が無く暗い/空室のアパートが多い/廃車がある/駐車場の壁に落書きがある ○戸建てが多いので人目がある/アパートの玄関灯が通りの街灯代わりにしている/花壇がきれい/整備されていた/老人憩いの家	○緑が多いのはよいが少し整理した方がいい/隣家が茂っていた方がいい △物陰が多い/周辺の建物から公園内が見えない/ベンチに落書きがある/公園内の街灯が暗い/消えたりしている/全体的に雑草が多い/トイレの鍵が壊れている ○落書きを地域の住民で消した/花壇らしきものがある/ゲートボール場として使われている/朝はお年寄り/昼間は子ども/利用者が多い
早苗田公園 一仲の町公園 ルート	△急に暗くなる/明るいところと暗いところの差が大きい/車の量が少ない/自転車がスピードを出して曲がってくる/ミラーが一つもない/一時停止無視 ○公園内が中学生の通学路のようになっている □ミラーがあったほうがいい/車の交通量が多いので信号機をつけたほうがいい △工事中で街灯がいくつか消えている/大量にタバコの吸殻が捨てられていた/街灯が木で隠れている/暗い/街灯が片側しかない/町会によって違いがある ○インバータ付き照明/集金場がある/パトロール隊と出会う/センサーライトがありありがたい □(遊具に)ライトがあるといい	△ボール遊び禁止なのにフェンスがある/暗い/明かりが消えている/花が無い/遊具の色が赤い/雑草が生えている/遊具が生えている/落書きがされている ○周辺に民家がある/見通しが確保されている/砂場が整備されている/15年くらい地域のパトロールがある/ブランコの可動部が整備されている □ゴミ箱を交差する/花壇の設置/ゆり直す/ブロック塀が不要/落書きを消す △周囲は人通りが少ない/ゴミがあつた/ライトの反対側の道路は暗い/枝の下は真つ楕/植栽で死角がある/街灯が明るく窓が閉められている/空き事務所が隣接 ○ハロウィンでとても明るい/視界を妨げない/いろいろな植栽/住民の生活がしみ出している/戸建て住宅から見守りがある/近くに老人憩いの家があった □花があるとよい
神松寺北公園 一浦谷公園 ルート	△樹木によって光が遮られている/車があり通りにくい/植え込みの間にゴミ/落書きされた看板・トイレ/全体的に草が生えている/壁一面に落書き/道が狭い ○見通しがよい/明るい/遊べるものがない/水飲み場がある □(遊具に)水を差した方がいい	△手入れがされていない花壇があつた/ゴミがあつた/車の通りが多い/街灯が一つで全体的に暗い/街灯の支柱の上にライトがあり真下が暗い ○道路からの目線が通りやすい/防犯パトロールの集合場所/子ども110番の家/民家のリビングから光が漏れている/周囲がフェンスで見通しがよい
松山中央公園	△樹木により光が遮られている/ブランコの位置が死角になっている/雑草が生えている/外から中が見えない/壊れた門扉から野犬が入ってきてしまう/危ない ○民家が近い/民家に配慮した街灯/民家への通路となっている/落ち葉が集まっている/陰になり休憩しやすい/民家の明かりで明るい □草むしりをして欲しい	△大人があまりいない/ゴミが落ちてくる/街灯はあるが点いていない/ベンチが汚れている/近づいてくる人がいる/トイレが暗くて怖い/掲示板のガラスが割れている ○街灯がとても明るい/夏祭りの会場となっている/子どもが多い/落書きが多い/周囲の民家から見やすい/しかも誰かが近づいて来ている/警察がパトロールしていない/周囲の掲示板のガラスに)保護があればいい
金山公園	△人気が少ない/管理されていない/残地/段差があり園内が見えない/隠れられる死角/明かりが消えている/明かりのない学生アパート/窓のないアパート ○遊具の色が明るい/花が沢山ある/音がきれいにカットされている/水道がある/(1)サイクルBOXに)住民が時々訪れる	△公園に挙げられた悪い意見 ○公園に挙げられた良い意見 □公園に対する改善案
七隈菊池公園	△サイクルBOXに)住民が時々訪れる	

(e) 地域における大学生の存在が与える影響

大学周辺を対象地としたことで項目8「防犯面からみた公園の良い点・悪い点」において、少数ではあるが大学生に関連する意見が挙げられた。「大学が近いので学生の目がある」「横にグラウンドがあり大学生も多いので人の目があり良い」といった意見が良い点として2公園に2件みられた。また「大学生が花火をしてゴミを散らかしている」「大学生がサッカーや野球をして使えない時がある」といった意見は悪い点として6公園で15件挙げられた。これより、大学生の利用は子どもを見守る目となりえるが、大学生のマナーの悪さにより住民の利用が妨げられていることや、大学生の存在が保護者の犯罪不安を高める要因となっていることが把握された。

(2) 防犯診断より得られた公園に対する意見の傾向

防犯診断の結果から得られた公園の良い・悪い点、改善案に関する意見を表-8に示す。

(a) 公園内における照明環境の現状

くらがり調査より得られた結果から、街灯付近のみ明るく、それ以外1.0lx以下の照度が測定された公園は「松山中央」(図-1)、「浦谷」,「金山」,「七隈若宮」の4公園が抽出された。これら公園に対する防犯診断の結果をみると「松山中央」と「浦谷」では「樹木により光が遮られている」、「公園内の街灯が点いたり消えたりしている」等の悪い点が多いのに対し、「金山」や「七隈若宮」では「道路からの目線が通りやすい」などの比較的良好な点が挙げられている。前者と後者に関して公園の空間構成を比較すると、その差異の特徴として、①公園外から公園内への見通しが悪いこと②街灯の故障や草木の繁茂などの管理不足③公園内の照度にムラが抽出された。一方、公園に対して良い意見が多く、公園内の照度が高い「七隈菊池」(図-2)の防犯診断結果を見ると、公園内の明るさ確保によって公園内の見通しが悪いといった意見は少なくなっている。しかし、周囲との照度の差が大きくなることによって、「周辺にある駐車場の暗い」「周辺に管理されていない空き地がある」など、周



図-1 松山中央公園の防犯診断結果 (一部抜粋)

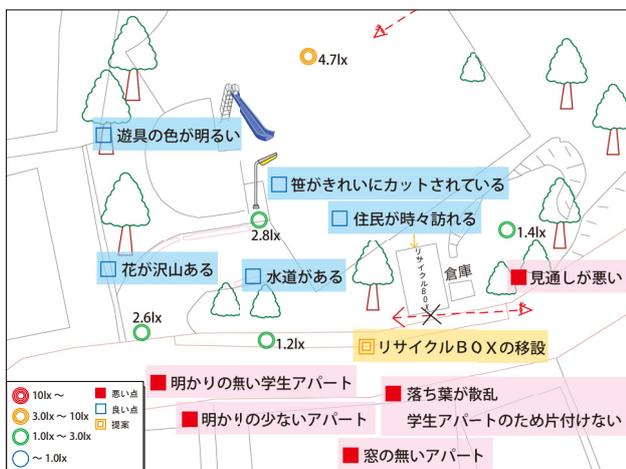


図-2 七隈菊池公園の防犯診断結果 (一部抜粋)



写真-3 高いフェンスの様子



写真-4 ブロック塀の様子

辺環境への不安がより高まっていることが把握された。また公園に設置されている街灯の照度が高い「菊池ヶ丘」では「街灯の照度が高すぎるために住宅の窓が閉められている」といった悪い意見も得られている。

#### (b) 公園管理の認知実態

調査を行った公園のうち、6公園で何らかの逸脱行為が把握された。「松山中央」(図-1)や「浦谷」の死角となる草木の繁茂した箇所では「ゴミが多い」「壁一面に落書き」「ベンチに落書きがある」などの悪い点が多く得られた。なかでもトイレが設置されている公園では、トイレに対し「トイレの鍵が壊されている」「落書きされたトイレ」といった行為の指摘が集中的に把握された。「七隈」の防犯診断結果を見ると、「ボール遊び禁止なのにフェンスがある」(写真-3)、「ブロック塀が不要」(写真-4)といった利用実態を把

握できていない整備が散見された。また「明かりが消えている」「街灯がついたり消えたりする」といった街灯の故障や玉切れは5公園で確認され、周辺環境においても多く見受けられたことに加え、照度低下の要因である「街灯のグローブの汚れ」なども悪い点として挙げられた。一方、草木の繁茂やそれによる死角は多くの公園で悪い点として把握されている。他方、「神松寺北」や「浦谷」、「七隈菊池」(図-2)において「落書きを地域住民で消した」「住民の要望で明かりが追加された」「笹がきれいにカットされている」といった良い意見も挙げられている。これより、普段より住民は公園の環境改善および管理状態を認知しており、それらを防犯性の評価と結びつけている点が看取される。

#### 4. 考察

##### (1) 防犯まちづくりのための屋外環境改善の要点

###### (a) 犯罪発生箇所情報の住民への認識の促進

項目8「防犯面から見た公園」の「悪い点」に着目して、「対象事案の伝聞の有無」で「有り」の割合が高い公園(表-6)と利用時の安心度が低い公園(表-7)を比較すると、前者では「遊具で遊ぶと木で見えにくくなる」「樹木やトイレ設備により死角がある」といったハード面に関する悪い点が多く挙げられている。一方、後者では「遊んでいる子供をあまりみない」「人通りが少なく暗い」といった公園内または周辺に人がいないことに関する悪い点が多く挙げられており、ハード面を悪い点とする指摘は少ない。このように、保護者の普段の利用時における安心度は、利用者数などの監視性によるところが大きいのに対し、対象事案の伝聞を耳にすると、対象事案が起こりうる死角といったハード面の監視性に目を向けることが把握された。よって、対象事案の減少を図るには、保護者が普段からハード面の監視性に配慮する必要があると、警察が公開する犯罪発生箇所の物理的な情報の認識向上を促すことが重要といえよう。

###### (b) 照度のムラと周辺環境を考慮した環境改善の重要性

前章(2)(a)で指摘したように、全体的に照度が低かった4公園に対する意識調査結果を照合すると、照度のムラが把握された「松山中央」「浦谷」では「対象事案の伝聞の有無」で「有り」の割合が高く、極端な照度差の見られない「金山」「七隈若宮」では「有り」の割合が低かった。すなわち、防犯面からみた公園内の照明環境改善においては、暗さのみならず、照度の「ムラ」に着目した対策の重要性も示唆される。また「七隈菊池」および「菊池ヶ丘」の調査結果より、照明環境の改善を効果的なものとするには、周辺環境にまで配慮する必要があると言えよう。加えて、街灯個数の増加や高い照度の器具に更新するといった直接的対策に終始せず、まずは見通しや照明付近の管理状況を改善する間接的対策を試みるのが照明環境整備において重要と示唆されよう。

##### (2) 大学の果たした役割

###### (a) 専門性の活用と触媒としての機能

本プロジェクトにおいては、既存の研究成果を活用しつ

つも、景研が地域の状況を踏まえてカスタマイズした方法で調査分析が行われた。またワークショップ手法といったまちづくりの実務的な経験や知識を有する景研の学生をはじめとした人材の活用も随所に見られた。さらに防犯シンポジウムの開催によって、地域住民や行政機関等に対して報告することができた。すなわち、大学が持つ専門性が活かされたと言える。

前述したように防犯診断を通して公園内の多くの管理不足が把握されていた。樋野・小出<sup>10)</sup>によれば、これらの管理不足は保護者の持つ犯罪不安を煽るだけでなく、放置しておく「望ましくない人物や行為」を招く結果につながると指摘されており、早期の発見および改善が求められる。これに対し、本調査の結果から住民はこのような公園の環境改善および管理状態を十分認知していることが把握されている。本プロジェクトの活動を通して、住民と行政が公園の利用実態等の情報を共有することで、死角の削減や見通し確保を円滑に実現させる整備に向かうものと推察される。すなわち、大学が関連主体間の情報共有を促す触媒として機能することが重要であろう。特に、福岡大学の地域ネットの支援は、こうした情報共有や関係主体間の連携に大きな役割を果たしていた。このように大学が地域貢献することを前提とした専門部署の設置は、今日、他大学においても多く見受けられるため、本プロジェクト同様の取り組みは他地域でも可能であろう。

#### (b) 大学側の課題

従来、福岡大学には「ななくま」という学生による防犯ボランティアのパトロール組織があり、「若い学生の参加が活動を続けてきた住民に刺激を与え、活気をもたらしている」との評価も報じられてきた<sup>11)</sup>。今回、本プロジェクトにおいて行なったような屋外環境改善の取り組みと大学参加を組み合わせることで、地域における大学の役割をより高めることができると考えられる。ただし、学生の卒業や研究期間の終了などの理由から、大学の地域への関与が一過性のもことになる事例も散見される。上記のパトロール隊や地域ネットのような組織を核とした継続的関与が、今後の防犯まちづくりに対する大学の課題と言えよう。

### 5. おわりに

本研究の成果は以下の通りである。

- 1) 保護者への意識調査より、利用頻度の高い／子ども対象事案の伝聞が多い／利用時の安心度が低い公園の傾向、及び地域における大学生の存在が与える影響を把握した。
- 2) 大学と住民が協同して実施した防犯診断の結果から、周辺公園の照明環境ならびに公園管理の実態を明らかにした。
- 3) 意識調査の結果から、保護者に対して、犯罪発生箇所の物理的な情報の認識を促すことの重要性を明らかにした。
- 4) 公園内の照明環境の整備においては高照度の器具に更新する等の直接的対策に終始せず、まずは見通しや照明付近の管理状況を改善する間接的対策を試みる重要性を示した。
- 5) 本プロジェクトを通して住民と行政が公園の利用実態等

の情報共有することが死角の削減や見通し確保を円滑に実現させる整備となることを推察した。さらに地域全体で取り組む防犯まちづくりにおいて、大学は関連主体間の情報共有を促す触媒として機能することの重要性を示唆した。

付言として、本事例では、過去の技術指導を通じた県警と研究機関の信頼関係が予め存在したこともプロジェクトの円滑な推進に寄与している。他地域において同様のプロジェクトを進める際には、初期段階に時間をかけ、当事者間でこのような関係を構築することが重要と言えよう。

#### 【謝辞】

本研究を進めるにあたって、福岡県警察をはじめとする各関係団体に多大なご協力を頂いております。ここに記して謝意を表します。

#### 【補注】

- (1) これらは福岡市城南区が管理しているものに加え、金山団地内に存在する複数の公園を金山団地公園と総称して表している。
- (2) くらがり調査とは地域住民が暗くて不安と感じる場所を確認し、その原因を把握するために照度の測定、街灯の故障・グローブの汚れなどの調査を行うものである。
- (3) 金山団地公園については、団地内に点在する公園を総称しているため、比較の対象からは除外している。
- (4) 「子ども対象事案の伝聞の有無」で「有り」の割合が15%を超える公園は除いているが、これは実際に起こった対象事案に対する不安ではなく、公園の利用時の犯罪不安を把握するためである。
- (5) 倉瀬戸2号公園、友丘1号公園は、項目8の記述数が少ないため対象からは除外している。

#### 【参考文献】

- 1) 国土交通省住宅局「平成20年住生活総合調査結果」pp.83, <http://www.mlit.go.jp/common/000132799.pdf>
- 2) 国土交通省都市・地域整備局「防犯性能を考慮した商業地の公共施設設備・管理手法の検討報告書～概要版(マニュアル)～」pp.1-3, <http://www.mlit.go.jp/crd/city/sigaito/tobou/hankagaibohanmanual.pdf>
- 3) 樋野公宏(2005)「地域安全マップにみる住宅地における犯罪不安箇所の空間特性」国土交通省国土技術研究会報告 <http://www.mlit.go.jp/chosahokoku/h17giken/program/kadai/pdf/ippan/bos2-07.pdf>
- 4) 毎日新聞4月5日号(2012)「地域防犯:大学生ボランティアが急増」
- 5) 樋野公宏・吉村輝彦(2010)「地区レベルでの防犯まちづくりに関する計画づくりの意義と課題」日本都市計画学会都市計画論文集 No.45-3, pp.331-336
- 6) 雨宮護・島田貴仁(2009)「都市の空間構成と犯罪不安の関連-地域特性を考慮した防犯まちづくりにむけた基礎的研究」日本都市計画学会都市計画論文集 No.44-3, pp.295-300
- 7) 雨宮護・横張真(2006)「都市部に立地する公園における逸脱行為の実態と行為発生予測モデルの構築」日本都市計画学会都市計画論文集 No.41-3, pp.863-868
- 8) 吉村英祐・生川慶一郎・宮本京子(2007)「地域と大学の協働による防犯まちづくり手法に関する研究-旧吹田村と千里ニュータウンの比較による分析」住宅総合研究財団研究論文集 No.34, pp.77-88
- 9) 独立行政法人建築研究所(2009)「防犯まちづくりのための調査の手引き」建築研究資料 No.117, pp.8-10, pp.36-62
- 10) 樋野公宏・小出治(2005)「住民による管理活動が公園の犯罪不安感に与える影響」日本建築学会計画系論文集 第592号, pp.117-122
- 11) 読売新聞4月20日号(2012)「学生が防犯の担い手に」